

夢の光景 「新しい修学旅行」より

校長 関根達郎

1 「新しい修学旅行のコンセプト」

令和2年は、コロナ禍の真っ只中だった。2月28日から突然日本中の小中学校が休校になった。それから3ヶ月戦後の学校教育では考えられないことが起こっていた。入学式も始業式も最低限に行い一刻も早く子供たちを家庭に帰した。学校は完全にストップした。6月から分散登校が始まったが、従来のバスを使った修学旅行は市内一斉中止となった。その時に熊谷市教育長の学校訪問があり、教頭先生と私に課されたのが「新しい修学旅行」だった。「修学旅行はどうするんだ？」と教育長の問いに、教頭先生は「修学旅行は徒歩で熊谷を回ります」とコンセプトを語った。教育長さんも「そうなるよな」と指示した。

2 総合的な学習の時間で創る「修学旅行」

「コロナ禍の新しい修学旅行」があるのか？前例はない。だったら創るしかない。そこでお願いしたのが石原小総合的な学習部会だった。6年の担当のY教諭はかなり困っていた。「バスで行けないのですか？」答えは「NO」である。コロナ禍では「バス旅行は密」になり、あり得ないのだ。「修学旅行を延期すればできるのか」それもなんの確証もなかった。旅行会社がつくっていた修学旅行を学校だけでは簡単に創ることはできない。当初から支援を表明していたのは、熊谷高校のK校長と熊谷青年会議所（JC）のM理事長であった。学校ホームページで「修学旅行を創る」を発表すると真っ先に声をかけてくれたのは歴代PTA会長のNさんであった。「本石町の屋台を出します。修学旅行を一緒につくりましょう」と言ってくれた。そしてついに6年生は夏休み明けから総合的な学習の時間「くまがやラグビーオリパラプロジェクト」で「修学旅行を創る」を始動した。

3 見学地の交渉

見学地の交渉が必要だった。子供が熊谷を調べた結果行ってみたいところを設定していく。「自衛隊」「熊谷寺」「グライダー場」「妻沼聖天山」「八木橋」「熊谷女子高校」等様々な場所があがってくる。その後6年担任が交渉を行う。あまりに多くの関門に先が読めない。しかし交渉しているうちに次々に「快諾」「応援」の声が返ってくる。「グライダーの乗って飛行することも可能！」「自衛隊の食堂で食事が食べられる」「市長室で市長さんが案内してくれる」熊谷の修学旅行の魅力がどんどん飛び出してくる。それでも交渉先が多方面にわたり、困難を極めた。星溪園では6年担任のY教諭のお兄様まで協力してくれることになる。本石町に加えて石原区の屋台も応援してくれることもなる。和菓子の「かんだ和彩」では和菓子作り体験もさせてくれる。そして妻沼聖天山では、私の前任校妻沼小学校の児童がガイドをしてくれることになった。「夢のコラボ」である。中学校、高校も快く引き受けてくれる。そしてそれぞれの学校で準備を進めてくれる。交渉は順調にすすんで児童の計画もできあがりつつあった。

4 再び襲いかかるコロナの波

修学旅行当日は11月20日である。その2週間前からコロナ感染者が増加し始める。そのコロナの波が「新しい修学旅行」に押し寄せた。自衛隊からの見学不可能の連絡が入る。市役所も当初30名人まで大丈夫であったが人数制限が加わり15名に減らされる。直前で計画は変更しなければならない。6年団の「全員できないのなら市役所は断念」と

という答えを市役所に返したところ「市長の予定を変えることができずどうしても15名に」という返答がそれでも市長室には行ける。さらに昼食場所の密を考慮して昼食は全員「テイクアウト」に変更を前々日に決断。子供たちにとって一度決めた計画を何度も作り直すという試練になった。学年主任のH教諭もぎりぎりの対応をしていた。コロナ禍で果たして「新しい修学旅行」はできるのか？そんな不安の中で当日を迎えた。

5 夢の光景（抜粋）



大原中 熊谷高校 熊谷農業高校 熊谷女子高校 荒川中学校は校長先生が中心となって子供たちを歓迎してくれ生の授業や体験をたくさんさせてくれた。真剣な授業風景見学・校舎案内など普段できないキャリア教育が展開していた。熊谷高校は小学生を高校生の前に座らせて授業をしてくれた。

本石町・石原区の屋台前でお囃子会の人達がたくさん歓迎してくれた。オリジナルのプレゼントを用意してくれたり、説明してくれたり、屋台の上に乗ることも企画してもらえた。今年お祭りができなくても石原小学校のためにお祭りを企画してくれたのだ。



当初から「熊谷王クイズ」で応援してくれた青年会議所。クイズ王のキャラクターが登場したり、「雪くま」を全員に振る舞ってくれたりした。星溪園のガイドもしてくれた。



何より感動したのは、妻沼聖天山である。妻沼小学校の児童が「歓迎石原小学校6年生」のプラカードを持って歓迎してくれた。「観光ガイドは小学生。」私が2年前に取り組んでいた総合的な学習の時間が花開いた。

6 宝物を創ってくださった方々への感謝

ふるさと学習や子供たちの思い出は「石原小学校の宝物」である。コロナ禍での困難な状況の中での修学旅行だからこそ、のべ200人以上の人々が応援してくれたのかも知れない。関わったみなさんの心の中に刻まれている「新しい修学旅行」。人々をつなぎ笑顔あふれる光景、それはまさに「夢の光景」であった。2020年だけの修学旅行、石原小学校だけの修学旅行であるが、手作りのすばらしい企画になった。もう二度と見ることができない素晴らしいイベントだと思う。「ピンチはチャンス」人々の危機感と熱意が作り上げた奇跡に近い。石原小の先生方、地域の方々、諸団体の方々に心から感謝の気持ちを伝えたい。